

【感染と発病の違い host-parasite relationship】

さて、インフルエンザが流行する年があります。しかし、インフルエンザウイルスが生体に侵入したからといって、「ああ、やられた」とみんながみんな発病するのでしょうか。外からの邪気（いわゆる細菌やウイルスのことです）にばかり目が向いていませんか？ むろん、それらが病気の大きな原因であることは確かです。けれども、「発病」には、生体側の条件も、大きく関与しているわけです。

西洋医学において、外邪に的を絞って有効な薬物が次々に開発されてきたプロセスにはすばらしいものがあります。しかし、人間の側の条件をどう整えていくのか？という発想はちょっと弱いですね。漢方治療は、この生体側の内部環境を整えることが大きな役割となります。

どのお薬をとってみても、「抗生物質」的な考え方はありません。しかし、私が「ウイルスさん、どんとおいで」とばかりにカゼのシーズンにもゆったり構えていられるのは、漢方の「免疫機能の調整」に大いなる信頼感を寄せていられるからです。漢方薬の中に含まれている多くの生薬、人參（にんじん）であれ、柴胡（さいこ）であれ、基本的にホメオスターシス（生体を安定した状態に保とうとする働き）を強化・保持し、結果として免疫機能（生体の防衛力）を安定させ、それが疾病の予防につながるわけです。